

自まんの新米

日知屋東小 四年 濱砂 凜々花

いいにおいがする。何のにおいかな。そのにおいにつられて台所へ行ってみると、めずらしくお母さんが土なべでごはんをたいていました。どうしたのかなとふしぎに思ってきました。

「何で今日は土なべなの。」

「今年の新米がとれたから、土なべのごはんにはチャレンジしてみたんだよ。」

とお母さんが言いました。

私のおばあちゃんの家では、お米を作っています。私も少しだけお手伝いをします。田植えの時はなえをはこんだり、田植え機が植えられない所を手で植えたりします。夏休みになると、おばあちゃんと田んぼの水やなえのようすを見に行きます。そのころには、なえは私のひざぐらいの大きさになって、白い小さな花がたくさんさきます。近付いてよく見てみないとわからないくらい小さくてかわいいです。そしてお米のいいにおりもします。秋になると、花がしぼんでお米のつぶがふくらんできます。しゅうかくのころには重くなっていねがおじきしているみたいですよ。その時の私のお手伝いは、コンバインで

かれないところをかまでかったり、落ちているほをひろったりします。そして、かんそうさせたら新米ができあがります。

毎年、しゅうかくの日の夜は新米を食べるのがみんなの楽しみです。

「良かった。うまくたけてたよ。」

とお母さんの声が聞こえてきました。私はまっ先に新米を一口食べました。するとおいしい味が口いっぱいに広がりました。しかも、もちもちしていて、いつもと味がちがいました。おいしくて、おかずを食べるのをわすれるくらいでした。

「やっぱり土なべでたいごはんはおいしいね。」

とお父さんが言ったので、

「みんなで作った新米だからじゃない。」

と私が言うと、それを見たお母さんが笑っていました。

私は、くろうして作った分、お米はおいしくなるんだと思います。

来年は、少しお手伝いの数をふやして、もっともっとおいしいお米を作りたいです。おばあちゃん家のお米は私の自まんのお米です。